

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ） 予防接種説明書

予防接種を受ける前に以下をよくご覧ください。わからないことは接種を受ける前に医師にご質問ください。

【どんな病気？】

おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)は、ムンプスウイルスによって起こる子どもに多い病気で、基本的には飛沫感染(咳やくしゃみ等により感染すること)ですが、患者との直接接触や患者の唾液のよる間接的な接触感染(皮膚や粘膜の直接的な接触、または病原体の付着したタオルや容器などに触れることにより感染すること)もあります。

2～3週間の潜伏期間(感染してから症状がでるまでの期間)の後、耳下腺と顎下腺等の唾液腺の腫脹と圧痛、嚥下痛、発熱を主症状として発症します。たいていは耳下腺の両側とも腫れますが、片方だけ腫れる場合もあります。また、ムンプスウイルスに感染しても、約30～35%程度は不顕性感染(病気としての症状が出ず、知らない間に免疫だけができる感染のこと)であるとされています。症状は通常1～2週間で軽快しますが合併症として、無菌性髄膜炎が1～3%、まれに脳炎、膵炎のおそれがあり、成人がかかると精巣炎、卵巣炎を起こすことがあります。

一番かかりやすい年齢は4～5歳です。おたふくかぜの後遺症として難聴(聴力障害)があり、近年、罹患者のうち約1,000人に1人くらいの発生頻度で、その多くは回復が困難なものといわれています。

【どんなワクチン？】

ニワトリの胎児細胞で増殖して安定剤を加え、凍結乾燥した生ワクチンです。ウイルスを培養するためにニワトリの胎児細胞を使っていますが、卵そのものは使用していないので卵アレルギーがある子どもにも接種が可能です。

おたふくかぜワクチンの発病防止効果は約90%で、抗体の持続性はよいと言われています。1回目の数年後に2回目を受けるのがしっかりと免疫をつけるのに必要です。

妊娠中の場合は、このワクチンを接種することはできません。妊娠していない時期にあらかじめ約1ヶ月間避妊した後、ワクチン接種を行い、その後2ヶ月間避妊するよう注意する必要があります。

【副反応は？】

接種して2～3週間後に熱が出たり、耳の下が軽く腫れたりすることがありますが、一過性のもので自然に治ります。数千人に1人は無菌性髄膜炎になることがあります。その場合は、発熱、おう吐、頭痛を認めます。

【接種対象年齢・回数・間隔等】

予防接種名	接種対象年齢又は対象者	回数	接種間隔	当センター接種料金
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1歳以上	2回	1回目接種から1～数年後に2回目接種	1回 ¥8,000

接種後の注意

- ・接種当日の激しい運動は避けてください。
- ・接種部位に、発赤、いたみや硬結(しこり)をみることがありますが、特に心配はいりません。熱感あれば冷やして様子を見るようにしてください。
- ・ごくまれに1～3週間後に軽度の発熱やせきが出たり、耳下腺のはれることがありますが、心配はいりません。2～3日で自然に軽快します。約1,000人に一人、無菌性髄膜炎をおこすことがあります。その時は、発熱・おう吐・頭痛を認めます。
- ・特に異常な症状があった時には、主治医か休日診療所を受診し、その結果を当センター(Tel.06-6768-1486)へご連絡ください。
- ・女性の場合、接種後少なくとも2ヶ月は妊娠しないことが大切です。
- ・このワクチン接種後4週間は他の注射生ワクチンは接種できません。

☆次頁の各ワクチン共通の説明書も、必ずご覧ください。

各ワクチン共通の説明書

1. 一般的な注意

- (1) 受ける予防接種について、この予防接種説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解してください。わからないことは予防接種を受ける前に質問してください。
- (2) 接種当日は、母子健康手帳を持ってきてください。(成人で母子健康手帳のない場合は結構です。)
- ◎受けられる方がお子さんの場合については、保護者の方は以下の点についても特にご注意ください。
- (1) 当日は体温を計り、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わった様子がないことを確認してください。接種に連れていく予定をしても体調が悪いときはやめてください。
- (2) お子さんの日頃の状態をよく知っている保護者の方がお付き添いください。
- (3) 予診票はお子さんを診察して接種する医師への大切な情報です。ありのままに記入してください。

2. 病気にかかった後の接種間隔

麻疹、風疹、水痘、おたふくかぜ等にかかった場合には、全身状態の改善を待って接種してください。医学的には、免疫状態の回復を考えて次の間隔をあけてください。

麻疹 (治ってから 4 週間程度)	風疹、水痘、おたふくかぜ (治ってから 2~4 週間程度)
突発性発疹、手足口病、伝染性紅斑 (治ってから 1~2 週間程度)	普通感冒や上気道炎 (治ってから 1 週間程度)

3. 予防接種を受けることができない人

- (1) 明らかに発熱のある人(明らかな発熱とは、接種場所で測定した体温が 37.5℃以上を指します。)
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。急性の病気で薬を飲む必要がある人は、その日は見合わせるのが原則です。
- (3) 予防接種の接種液の成分でアナフィラキシー(接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応のこと)を起こしたことがある人。
- (4) BCG 接種の場合は、外傷などによるケロイドができたことがある人。
- (5) その他、医師が接種不相当と判断した人。

4. 予防接種を受ける場合、医師とよく相談しなくてはならない人

次に該当すると思われる人は、かかりつけの医師がある場合には必ず前もって診ていただき、診断書又は意見書をもってからご来院ください。

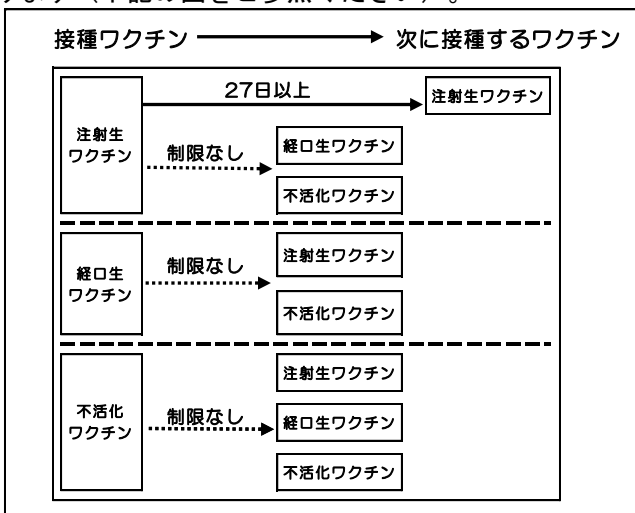
- (1) 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気及び発育障がいなどで治療を受けている人。
- (2) 予防接種後 2 日以内に発熱及び、全身性の発しんなどアレルギーを疑う症状がみられた人。
- (3) 接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーの症状が出るおそれのある人。
- (4) 今までにけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある人。
- (5) 過去に免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人。
- (6) 家族、接触のあった友だちなどに、麻疹(はしか)、風疹、おたふくかぜ、水痘(みずぼうそう)などの病気が流行している時で、予防接種を受ける本人がその病気にかかっていない人。感染して潜伏期間(症状が出ない期間)中の場合がありますので、かかりつけの医師と事前によく相談してください。
- (7) BCG 接種については、過去に結核患者と長期に接触があった人、結核に感染している疑いのある人。

5. 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- (1) 予防接種を受けたあと 30 分以内に、急な副反応がおこることがあります。接種後は安静に待機し、体調に変化がないかどうか様子を見てください。
- (2) 接種部位は清潔にしてください。入浴は差し支えありませんが、接種した部位をこすることはやめてください。接種当日はいつも通りの生活ができますが、はげしい運動は避けてください。
- (3) 高熱、おう吐、けいれん(ひきつけ)など特に異常な症状があった時には、主治医か休日診療所を受診し、その結果を当センターへご連絡ください。

6. 予防接種の接種間隔

異なる種類のワクチンを接種する際、注射生ワクチンと注射生ワクチンは 27 日以上間隔をあける必要があります(下記の図をご参照ください)。



予防接種の種類
【注射生ワクチン】 麻疹風疹混合(MR) 水痘(みずぼうそう) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) 結核(BCG) 黄熱
【経口生ワクチン】 ロタウイルス(1 価・5 価)
【不活化ワクチン】 4 種混合 (ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ) 3 種混合 (ジフテリア・百日せき・破傷風) 2 種混合 (ジフテリア・破傷風) インフルエンザ ポリオ 破傷風 日本脳炎 ヒブ(インフルエンザ菌 b 型) A 型肝炎 B 型肝炎 狂犬病 髄膜炎菌 肺炎球菌(13 価・23 価) HPV(ヒトパピローマウイルス)
◎同じ種類のワクチンを複数回接種する場合、それぞれのワクチンに定められた接種間隔があります。医師とよく相談したうえで接種を受けてください。